

解剖訓蒙骨論

慶應義塾  
醫學部  
圖書室



188

富士川文庫



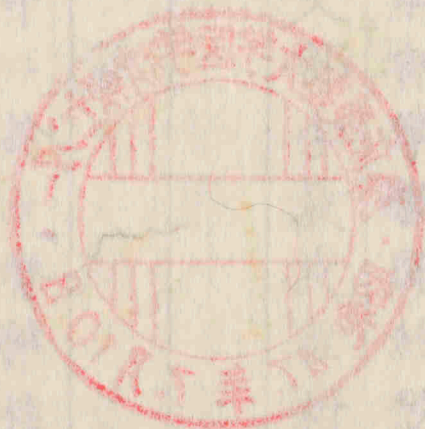
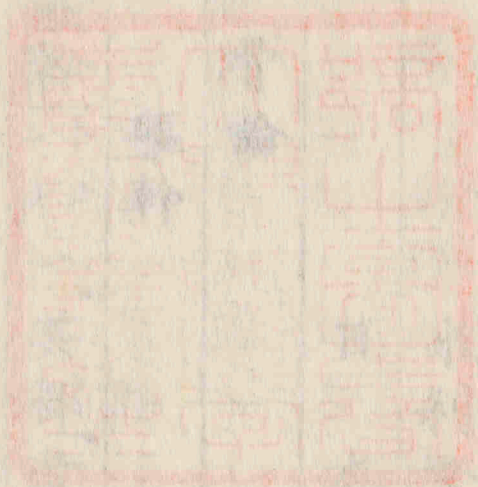
491.1

Ka-3

2



k10-2

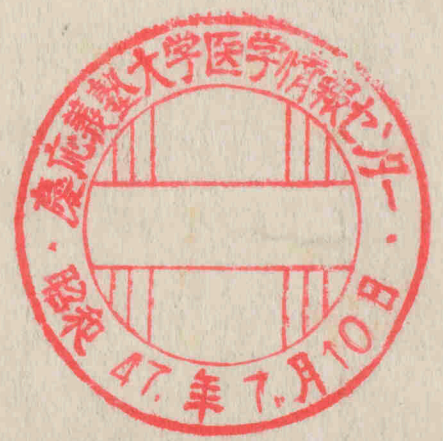
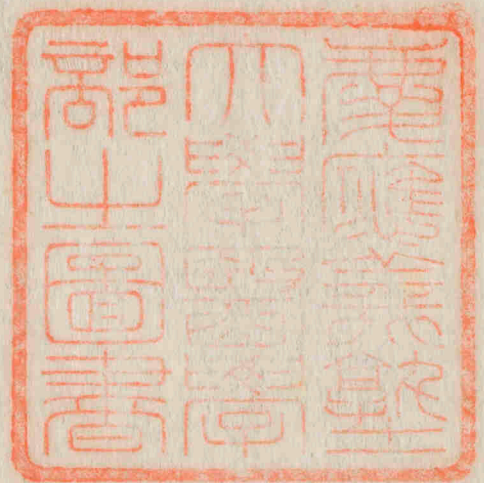


西文川士區  
3945



491.1  
K2-3  
2

No. 2388  
13 K40-2



富士川文庫  
2448



解剖訓蒙卷之二

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著

日本 文部少教授松村矩明譯

骨論

軀幹

軀幹トノ口ハ、其部、骨骼中ニ於テ、脊椎柱、肋骨、胸骨、  
及ヒ膀胱骨ヨリ、造構セシ所、稱ニシテ、上端ハ、頸  
軸ヲ爲シ、下部ハ、次第ニ胸膛、及ヒ腰軸ヲ爲シ、最  
下ハ、尻骨盤ヲ爲セリ、

脊椎柱

下ロシキユス

解剖訓蒙 卷之二

甲 コロムナ、ヴェルテブラ  
全 スパイナル、コロム  
全 コロムナ、ドルシー

乙 スポインデーリイ  
全 スポインドル

脊椎柱 ヴェルテブラ ハ、軀幹后ノ中線ニ位シテ、渾身ヲ支柱スル樞軸ナリ、其造構ハ、三十三片ノ兩側匹同骨ヨリ疊成セル者ニシテ、每片ヲ 椎骨 ヴェルテブラ ト稱ス、其中ニ真假ノ二様アリ、上方ノ二十四片ハ、真椎ニシテ、下方ノ九片ハ、假椎ナリ、脊椎柱ノ前部ハ、半圓形ノ一連ヨリ成リ、每片ノ間ニ纖維軟骨ヲ挾メリ、後部ハ、弓彎ノ一連ヨリ成リ、弓上、種種ノ突起アリ、或ハ相互ノ關節スル所、或ハ筋ノ羈附スル所ナリ、就中、後方ノ中央ニ在ル突起ハ、最長シテ刺棘ノ如シ、故ニ全脊椎ヲ目シ

甲 スピナ

乙 ヲルテブラ、ヴェ

棘 スピン ト稱ス

真椎骨

真椎骨 トル ヴェ ハ、頭顱ヨリ尻骨盤ニ達シ、其二

十四片、上ヨリ下ニ漸次ニ増大シ、終ニ末片ニ至リ、薦骨上ニ安乗ス、蓋シ軀幹ヲ貫通スルニ於テ、其處ニ從ヒ、之ヲ分テ三部トス、曰頸椎骨、曰背椎骨、曰腰椎骨、是ナリ、此每椎ニ於テ、每片各體、弓、七突起ヲ有ス、

體 ホ テ 骨ノ前部ニシテ、其形、半圓柱ヲ横斷セ

ル、一片ノ如シ、後面ハ凹陷シ、前及側面ハ絞束シ

甲 アルキユス、空ルテゾラ  
 乙 ヲルテララ、アルキ  
 丙 子ウラホ、フィシス、  
 丁 ホフメニス、ハイナール  
 戊 ヲルテララ、ホラメン

甲 アルキユス、空ルテゾラ  
 乙 ヲルテララ、アルキ  
 丙 子ウラホ、フィシス、  
 丁 ホフメニス、ハイナール  
 戊 ヲルテララ、ホラメン

上下ノ二面ハ、扁平ニシテ、周圍稍々隆起シ、其面  
 上ニ、軟骨板所謂纖維軟骨ナリヲ有シテ、隣片ニ聯合ス、  
 弓アルハ、體ノ后方ノ兩旁ヨリ、**細葉**ハ、ゲイヲ以テ  
 起張シ、其圍内、即チ孔ヲ成セリ、之ヲ**髓孔**ハ、スバ  
 ンラメト稱ス、髓管ノ一部ニシテ、脊髓ヲ藏ス、弓形  
 ハ、稜稜トシテ、側面ハ、下方ニテ擴張ス、故ニ全脊  
 柱ヲ見レハ、其連様、略屋瓦ノ層疊セルニ似タリ  
 弓ノ頂上ヨリ、后方ニ出タル突起アリ、**棘狀突起**  
 ス、**パイロキスト**ト稱ス、又其兩旁ヨリ、外方ニ出タル  
**突起**アリ、**横突起**ハ、タラト稱ス、共ニ諸筋

甲 プロセツシユス、アル  
 乙 チキユラールス  
 丙 ヲライク、グセツセス  
 丁 ラミナ

丙 ホラメン、インテル  
 丁 ヲルテララ

ノ羈附スル所トシ、弓ノ上下ニ於テ、各一對ノ突  
 起アリ、**關節突起**ハ、アルト稱ス、其面ハ、平  
 滑扁圓ニシテ、隣片ノ同名突起ニ聯關ス、**棘狀突**  
 起ト、關節突起ノ間ハ、一對ノ骨板ニシテ、**椎板**ハ、  
 トト稱ス、其上縁ハ、後方粗疎ニシテ、下方  
 粗疎ナリ、共ニ黄韌帶ノ依附スル所ナリ、  
 件ノ上下關節突起ト、體トノ間ニ於テ、**截間**アリ、  
**椎間截**ハ、イント稱ス、諸片一般ニ、下方  
 截間ハ、上方ノ截間ヨリモ深ク、其上下共ニ、隣  
 片ノ同名截間ト相合シテ、乃チ**椎間孔**ハ、イント稱ス、

ラル、ホヲ成ス、神經、血管ノ道路ナリ、  
 ラメンヲ成ス、神經、血管ノ道路ナリ、  
 體部、其造構ハ、一塊ノ海綿質ニシテ、緻密質ノ薄  
 層、其外表ヲ覆ヒ、巨大ナル數多ノ滋養孔、之ヲ穿  
 貫セリ、殊ニ後面ノ中央ニ於テ、著明ナル二孔アリ  
 リテ、海綿質ヨリ椎骨竇ニ通セル、靜脈ノ道路ヲ  
 爲ス、  
 弓部、及ヒ諸突起ハ、強剛ヲ要スルヲ、體部ヨリモ  
 多シトス、故ニ其質ノ緻密ナルヲ、適ニ超過セリ、  
 以上辨說スル所ハ、真椎骨ノ形態ナリ、然レモ、頸  
 背、腰ノ三部ニ從テ、各、變易スルヲ以テ、各別ニ說

頸椎  
 七片ニシテ、頸部ノ樞軸ヲ為  
 シ、頭顱ヨリ胸膛ニ至ル、其尤モ區別シ易キ明證  
 ハ、横突起ニ於ケル大孔ナリ、

カサルヲ得ス、且ツ一部上ニ於テモ、其諸片ノ形  
 態、一定セス、何トナレハ、各部隣接スル所ノ二片  
 ニ於テハ、外貌、互ニ多少類似シ、且又大ニ異狀ヲ  
 爲シ、其特務ニ適セシ者、即チ頸椎ノ第一片、第二  
 片ノ如キアルヲ以テナリ、

頸椎

頸椎  
 七片ニシテ、頸部ノ樞軸ヲ為  
 シ、頭顱ヨリ胸膛ニ至ル、其尤モ區別シ易キ明證  
 ハ、横突起ニ於ケル大孔ナリ、

體ハ、横經廣シテ、其形式、始片ヨリ末片マテ、漸次

増大ス上面ハ横經ニ凹陷シテ左右ノ兩縁隆  
 起シ下面ハ縦經ニ稍ヤ凹陷シテ前後ノ兩縁展  
 延ス斯ク上下ノ陷面相違ヘルニ由テ每體互ニ  
 啣合ス故ニ此部ノ諸片ハ他部ノ諸片ヨリモ短  
 小ナレト脱臼ノ患無キナリ  
 弓ハ其幅狭シ然レ他部ニ在ル者ニ比スレハ緩  
 祐ナリ髓孔ハ圓隅ノ三角ニシテ亦他部ヨリモ  
 大ナリ椎間截ハ其上下共ニ深淺殆ト同等ナリ  
 棘狀突起ハ短小ニシテ末端分歧ス横突起モ亦  
 短小ニシテ前後ヨリ起リ其后方ハ弓帶ヨリ

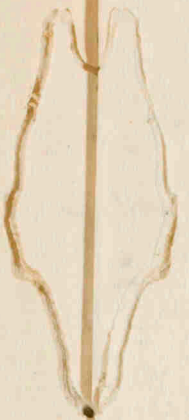
生シテ背椎ノ横突起ニ齊ク其前方ハ肋骨ニ擬  
 似セリ此前後ノ間ニ細骨アリテ互ニ聯結シ乃  
 千一孔ト爲ル此孔上方ノ六片ニ於テハ脊椎動  
 脈ノ通路ナリ  
 關節突起ハ上方ニ在ル者ハ其面后上方ニ傾キ  
 下方ニ在ル者ハ其面前下方ニ傾ク  
 以上頸椎ニ於テ辨説スル所ハ殊ニ第三片ヨリ  
 第六片マテニ適當ニテ其餘ノ三片ハ亦特異ノ  
 模式ヲ有ス故ニ以下ニ各説ス

第一頸椎ハ頭顱ヲ戴クヲ以テ  
 第六片マテニ適當ニテ其餘ノ三片ハ亦特異ノ  
 模式ヲ有ス故ニ以下ニ各説ス

アトランシヨ  
 アスタラガリュス

アタラス  
 神ノ名  
 ナリ

上ニ地球ト名ク其式ハ不正ナル環狀ニシテ他  
 フ戴ク片ヨリモ廣大ナリ環内ニ横韌帶アリテ乃チ二  
 部ニ分ル其前部ハ狭シテ第二片ノ齒狀突起ヲ  
 藏シ以テ樞機ヲ爲シ其後部ハ即チ髓孔ニシテ  
 脊髓ヲ納ル  
 前部即チ體ノ存スヘキ所ハ横梁ナリ前面ハ結  
 節ヲ有シ後面ハ平滑ナル關節面ニテ第二片ノ  
 齒狀突起ニ联接ス  
 弓ハ圓形ヲ爲シ棘狀突起ハ微ニシテ小結節ノ  
 如ク横突起ハ他片ニ比スレハ長展シテ尖端ニ



圓結節ヲ有ス

上關節突起ハ前内方ニ長經ナル橢圓ノ凹陷面  
 ニシテ内方ニ傾向シ以テ枕骨髁ニ聯關シ即チ  
 頭顱俯仰ノ運動ヲ司リ下關節突起ハ稍ヤ凹陷  
 ヘル橢圓面ニシテ下内方ニ向ケリ  
 關節突起ノ所在スル部ハ尤モ厚且大ニシテ頭  
 顱ノ重壓ヲ承載スルニ適シ殊ニ下關節突起ノ  
 内方ニ向ヲ以テ彼ノ重カヲ第二片ノ體ニ及シ  
 漸次ニ下椎ノ體ニ傳フ  
 上下關節突起間ノ内方ニ於テ小結節アリ横韌

甲  
△ 骨ト骨ト接スルニ  
エ。ヒストロロウ  
タ

乙  
△ フロセツシユス、  
フド  
ントイテユス  
フロセツシユス、  
デン  
タキユス

帶、茲ニ羈附シテ、齒狀突起ヲ放脱セサレシム、  
椎間截ハ、關節突起ノ后方ニ在リ其下截間ハ、淺  
小ナリ上截間ハ、外方ニ至リ、溝ト成リ、横突起孔  
ニ相連リ、脊椎動脈ヲ通シテ、枕骨孔ニ入ラシム、  
此截間、或ハ上ニ骨梁アリテ、孔ト爲ルコトアリ、  
第二頸椎ハ、樞軸ヲ有シテ、頭顱及ヒ第一片ヲ廻  
轉セシム、故ニ亦タ **樞軸骨** シアキト名ク、  
體ハ、其上面ニ於テ、前方ノ中央隆起シ、隨テ上方  
ニ延長シ、即チ **齒狀突起** フドントイテユスヲ造為スル  
ニ至ル此突起ノ形式ハ、尖圓ニシテ、是レ **アタラ**

区環中ニ入ル者ナリ其前面ハ、平滑ニシテ、横梁  
ニ接シ、后面ハ、横靱帶ニ向ヒ、頂上及ヒ側方ハ、凹  
陷シテ、頭ノ廻轉ヲ限制スル靱帶ヲ附着ス、  
弓ハ、他片ニ比スレハ、強大ナリ棘狀突起モ、殊ニ  
強大ニシテ、其側面凹陷シ、下面深溝ヲ有シ、末端  
分歧ハ横突起ハ、尤モ短小ニシテ、其孔、始ハ上關  
節突起ノ下方ニ上行シ、頰ニ外后方ニ曲穿ス、  
上關節突起ハ橢圓ニシテ、稍々凸出シ、斜ニ體側  
及ヒ弓帶ノ上ニ位ス、此突起ハ、頭ノ廻轉運動ノ  
畫界ニシテ、乃チ齒狀突起ハ、其中心ナリ、

上椎間截ハ、微ニシテ無キカ如シ下椎間截及ヒ  
其所在ノ近部ハ、他片ニ類同ス、  
第七椎ハ、背椎ノ形態ニ類似シ、且ツ棘狀突起長  
ク、其末端分歧セスシテ、結節ニ終ルヲ以テ尤モ  
明著ナリ、

背椎

背椎 ドールサル ヲ、ハ、十二片ニシテ、胸腔ノ樞軸ヲ

爲シ、頸ヨリ腰ニ至ル其區別シ易キ明證ハ、肋骨

ニ接セル關節面ナリ、

體ハ、他部ノ體ニ比スレハ、其形式愈半圓柱ニ類

エルトラスドルヤル  
トラシクヴェルテラ

似シ、上下ノ二面、扁平ニシテ、其幅、第一片ヨリ、第  
三片マテハ、漸次ニ减小シ、第四片ヨリ、第五片マ  
テハ、殆ト齊等ナリ、爾後、末片ニ至ルマテ、漸次ニ  
増大ス、

弓ハ、頸部ノ者ヨリモ、短小ニシテ強剛ナリ、髓孔  
ハ、殆ト正圓ニシテ、頸腰兩部ノ者ヨリモ、狭小ナ  
リ、  
椎間截ハ、毎片共ニ、上截間ハ淺シテ、下截間ハ尤

深シ、

棘狀突起ハ、細シテ長ク、三稜形ヲ爲シ、末端ニ結

節ア、其方向ハ、十二片上ニ於テ、始ハ後下方ニ傾キ、次第ニ急傾シテ、終ハ下方ニ傾ク、丁居多ナリ、横突起ハ、強剛ニシテ長ク、末端太キ、結節ヲ有ス、其方向モ、亦夕外方ニ傾クヨリ始リテ、漸次ニ直ニシテ、其上方ノ突起ハ、后方ニ向キ、下方ノ突起ハ、前方ニ向ケリ、

肋骨ト接セル關節面ハ、體ニ於テハ、兩側ノ縁ノ上下ニ在テ、共ニ半窩ニシテ、隣體ノ同名面ト相合シテ、一窩ヲ成シ、肋骨頭ト聯關ス、横突起ニ於

テハ、末端ノ前面ニ在テ、肋骨ノ結節ニ聯關ス、第一片及ヒ第十一、十二片ノ體ハ、全完ナル關節面ヲ有シテ、共ニ同第ノ肋骨頭ヲ承ク、

腰椎

甲 腰椎 ルロテン グバル ルダ ハ、五片ニシテ、腰部ノ樞軸ヲ爲シ、

胸腔ヨリ尻骨盤ニ至ル、真椎骨中ノ最巨大ナルト、且ツ横突起ノ孔無キト、且ツ肋骨ヲ受ルノ關節面無キヲ以テ、容易ニ區別スルヲ得ルヘシ、

體ハ、其式、橢圓ニシテ、横經ニ長シ、末片ニ至ルニ

甲 腰椎ノ名ニ付ル

隨ヒ、漸次ニ増大セリ上下二面ノ景況ハ、扁平ニシテ、背椎ニ於ルカ如シ弓ハ強且廣ニシテ、亦漸次ニ増大ス、

髓孔ハ、巨大ニシテ、三角形ヲ爲シ椎間截モ、亦タ巨大ニシテ、上下殆ト同等ナリ、

棘狀突起ハ、強固ナル直板ニシテ、后方ニ突出シ、末端、厚キ結節ヲ爲セリ、

横突起ハ、細小ニシテ、外方ニ向キ、中片ニ至リ、漸ク延長シ、末片ニ至リ、漸ク短縮ス蓋是レ肋骨ニ

擬似スル者ニシテ、真ノ横突起ニ非ス、但タ上關

節突起ヨリ、突出セル結節ハ、背椎ノ横突起ニ適當ス、

上下關節突起ハ、每片共ニ鉛直ニシテ、上突起ハ相對シ、下突起ハ相背シ此裝式ニ因テ、每片固ク啣合ス、故ニ胸腔ニ於ケル如ク、側方ノ支點ヲ具セサレハ、其關節ヲ保全スルヲ得タリ、

假推

假推<sup>甲</sup> テールス、ダハ、育初ノ時ニ於テハ、其造構、九

片ヨリ層疊セルヲ、畢竟真推ニ於ケルカ如シ、然

レハ、盛育スルニ及テハ、上方ノ五片ハ、生着シテ

テラスピユリ

即チ薦骨ト爲リ、下方ノ四片ハ、生着シテ即チ尾  
骶骨ト爲ル、故ニ假推ト稱スナリ、

薦骨

甲  
ヲス、サクロム  
ヲス、ラチユム  
又ルテ、クスマクナ

薦骨<sup>甲</sup> サクロムハ、其式、三角形ニシテ斜ニ後下方ニ向  
キ、胯骨間ニ挿入シテ、尻骨盤ノ後部ヲ造成ス其  
基礎ハ、上方ニシテ、腰椎ノ末片ヲ載セ、其尖端ハ、  
下方ニシテ、尾骶骨ニ連ル、  
全態ハ、前方ニ彎曲シ、前面ハ、廣キ平滑ナル凹面  
ナリ、後面ハ、錯雜不正ナル、細狭ノ凸面ナリ、其曲  
度、及ヒ丈幅ニ至テハ、各人、及ヒ男女ニ於テ同シ

カヲス、然レモ、男ハ曲度尤強ク、且ツ幅經ニ比ス  
レハ、丈經ノ優ルヲ通則トス、  
全態上ニテハ、一骨ナレモ、正ニ五片ノ椎骨ナリ、  
唯毎片ノ微發ナルト、一箇ニ生合セルトヲ以テ、  
明亮ニ分別シ得サルノミ、

前面ニ於テ、體部タル可キ際上ニ、四條ノ横線アリ、  
以テ育初ノ時ニハ、其五箇タリシヲ微ス可シ  
其第一部ハ、橢圓ナル關節面ヲ有シテ、終末ノ腰  
椎ノ體ニ联接ス、第五部モ、亦々橢圓ナル小キ關  
節面ヲ有シテ、尾骶骨ノ第一片ニ連合ス、

甲カナリス、サクラリス

後面ハ、毎片ノ弓部諸突起ノ、生合セシヨリ成レ  
リ、蓋シ第五弓ハ、不全ニシテ、后方開披ス、或ハ第  
三第四弓モ、亦然ル、アアルナリ、甲髓管カサクラルルハ、  
其形、三角ニシテ、真椎ノ髓管ニ繼續シ、漸次ニ下  
方ニ至リ狭小シ、即チ第五弓ノ不全ヨリ成レル、  
截間ニ終ル、

乙ホラメン、サクラリア

前後ノ二面、共ニ兩旁ニ於テ、歴然タル四孔アリ、  
乙薦骨孔ホサクラナルト稱ス、薦骨管ニ交通ス、是レ真  
椎ニ在テハ、即チ椎間孔ナリ、亦漸次ニ、下方ニ至  
リ細小シ、都テ薦骨神經、及ヒ血管ヲ通ス、蓋シ其

前面ニ在ル者ハ、最大ニシテ、外方ニ延テ、溝ヲ成  
セリ、

棘狀突起モ、亦漸次ニ下方ニ至リ減小シ、上方ノ  
三片ニ在ル者ハ、結節ノ形ヲ爲シ、中間ニ起線ヲ  
有シテ、共ニ連結シ、第四片ニ在ル者ハ、分裂シテ  
二結節ト爲リ、亦起線ヲ有シテ、上片ノ結節ニ連  
結ス、

基礎ニ於テ、腰椎ニ接セル關節突起ハ、其面、縦凹  
ニシテ、后内方ニ向キ、其両間ハ、廣キ截間ニシテ、  
黄韌帶ノ末對、爰ニ羈附シ、他ノ關節突起ハ、微育

アラシクシラリア

ニシテ、區別シ難ク、唯々後薦骨孔ノ内側ヲ限界  
ヒリ、  
薦骨翼グスハ、全態ノ側部ニシテ、肋骨及ヒ背椎  
ノ横突起ニ等シ、唯々毎片一箇ニ生合シテ、廣キ  
關節面ヲ成スニ至リ、以テ膀胱骨ニ聯關ス、其下方  
ハ、鈍縁ニシテ、薦坐鞞帶、茲ニ附着シ、后方ハ、粗疎  
面ニシテ、薦腸鞞帶、茲ニ附着ス、

尾骶骨

尾骶骨キハ、薦骨ノ下端ニ位シ、前下方ニ彎曲  
セル、四片ニシテ、真椎骨ニ等シ、蓋シ斯ク片數ヲ

ラス、コツシジス  
カウズル、ヴェルテアラ

定ハレ、生着ノ模様ニ由テ、變易アリトス、  
件ノ四片モ、亦薦骨ノ如ク、漸次ニ减小シ、且ツ發  
育不全ニシテ、愈、椎骨ノ形式ヲ失ス、其第一片ハ、  
壓平セル體ヲ有シ、上下ニ橢圓ナル、關節面アリ  
テ、上方ハ薦骨、下方ハ第二片ニ聯關ス、兩旁ニ横  
突起アリテ、屢、薦骨ノ縁ト生着シ、第五薦骨孔ヲ  
造ルニ至ル體后ノ兩旁ニ於テ、又短突起アリ、是

真椎ノ弓帶ニ同シトス、

餘ノ三骨モ、亦漸次ニ减小シ、唯扁平ノ體ヲ有ス  
ルノ三、蓋シ此數片ハ、卑下ナル獸畜ノ尾骶骨ニ

類似セルモノナリ

肋骨

甲  
コスター  
プレウラ

肋骨甲フハ、其數十二對ナリ、即チ左右ヲ合背推ヨ

リ起テ、胸骨ニ至リ、其形式、軀幹ノ兩側ニ於テ一

連シ、乃チ細弓ノ層級スルニ似タリ、前端ハ、肋軟

骨乙コスタレシカニ連リ、是ニ因テ延長シ、其上方ハ

七對ハ、胸骨ニ附着ス、故ニ真肋丙トテ、ルナリ、ルナリト

稱シ、下方ノ五對ハ、胸骨ニ附着セズ、故ニ假肋丁ト

於テ、會結シテ一箇ト爲リ、而シテ終ル、真肋ノ軟骨

乙  
カルキレシ子ス、  
スタリユム

丙  
コスター、ウエライ

全  
コスター、ゲノイナ

丁  
コスター、スヒユリア

全  
コスター、ソンドサ

甲  
コスター、スリユクチ  
ユエントス

ニ附着ス、下方ノ二對ハ、前端羈附スル所ナリ、故

ニ又タ浮肋甲トテ、リナリ、ナル、フロト稱ス、其

每骨ノ全徑ハ、第一肋ヨリ第八肋マテ、漸次ニ添

長シ、其次肋ヨリ季肋マテ、漸次ニ減短シ、幅經及

ヒ曲度ハ、第一肋ヨリ季肋マテ、漸次ニ狭小、緩裕

シ、方向ハ、始メ推骨ノ體ヨリ外后方ニ進ミ、推骨

ノ横突起ニ至リ、爰ニ於テ、外方ト稍マ前方トニ

向キ、其后チ頓ニ前内方ニ曲ル、且ツ兼テ推骨ヲ

離ル、下方ニ傾クヲ以テ、每肋繆轉シ、右端ヨリ

モ前端低下セリ、故ニ全徑水平ニ附着セサルベ

甲 カチユリユゴスター

乙 セルウエキス  
▲ コルリユム  
丙 キユベルキユリユム

シ、内外ノ二面ハ、每肋各扁平ニシテ滑澤ナリ上縁ハ鈍了シ、下縁ハ銳削ニシテ内側ニ一溝アリ、殆ト全徑ニ渡ル、是レ肋間動脈ノ通路ナリ、骨ノ后端ヲ肋頭ト稱シ、關節面ヲ有ス、其中間起線アリ、乃チ二面ト爲リ、背推ノ二體ニ相联接ス、頭ノ次部ヲ肋頸ト稱シ、狹隘セリ、其外方ニ結節ト稱ス、之ヲ限界ス、結節ノ上面ハ、肋頭ニ聯關セル、二椎中ノ下推ノ横突起ニ連合スル關節面ナリ、結節ノ外方ニ於テ、著キ疎粗部アリ

甲 エンギユリユム  
キユビキユムゴスター

リ、角ト稱ス、即チ所謂、頓ニ前内方ニ、曲向スル所ナリ、此角ト結節トノ距離ハ、第一肋ヨリ李肋マテ、漸次ニ遠隔ス、前端ハ、尤モ壓平ナル部ニシテ、上縁下縁共ニ鈍了シ、端面ニ橢圓ノ小窩ヲ有シ、肋軟骨ニ連合ス、之ヲ浸漬シテ、軟骨ヲ除去スレハ、其小窩乃チ見ユ、

内外二面ノ方向ハ、每骨ノ層級セル形状ニ從ハ、其外面ハ、即チ胸膛ノ外部ヲ爲シ、内面ハ、即チ内部ヲ爲ス、

以上ハ諸肋ノ總論ナリ、爰ニ又數肋ノ異容ナル者アリ、第一肋ハ、繆轉セス、且ツ其面ハ、上下ニ向キ、其縁ハ、内外ニ存シテ共ニ薄シ、而テ上面ノ前部ニ於テ、鎖骨下血管ノ小壓痕ヲ有シ、骨頭ノ關節面、唯夕一箇ナリ、第十一肋、第十二肋ハ、共ニ發育微弱ナリ、骨頭ノ關節面、亦唯夕一箇ニシテ、結節ヲ具セス、

肋軟骨

ルコスタル、カハ、全徑、第一肋ヨリ第七肋マ

テ漸次ニ長進シ、其次肋ヨリ季肋マテ、漸次ニ短退ス、方向ハ、第一肋ハ下行シ、其次ハ地平ニ、其他

甲  
カルチレジ子ス、  
スタリユム

ハ下方ニ至ルニ從ヒ、漸ク上行シ、乃チ胸骨ニ會  
轉ス、

外端ハ、全ク肋骨ノ組織ニ連合ス、内端ハ、真肋ニ於テハ、第一對ヲ除クノ他、皆チ胸骨ノ外側ニ直達シテ運動ヲ爲ス、次ノ三對ハ、相連結シテ、終末ノ真肋ノ軟骨ニ附着ス、下ノ二對ハ、尖銳ニシテ羈附スル所ナキナリ、

胸骨

胸骨

ルコスタル、カハ、全徑、第一肋ヨリ第七肋マ

シ、斜ニ下前方ニ垂ル、其式長且廣ニシテ、殆ト扁

甲  
ステルノン  
ラス、ペクトリス  
ラス、シ、フ、アイ、デス

平ナリ、故ニ昔時ノ劍ニ似タルヲ以テ、手鞆刀身  
 夫端ノ三片ニ分ツ前面ハ稍ヤ凸出シ、后面ハ亦  
 稍ヤ凹入シ、其質ハ頗ル輕久且ツ鬆疎ニシテ、海  
 綿ノ如シ、唯外表ノ薄層、稍ヤ緻密ナルノミ、  
 手鞆ハ即チ第一片ニシテ、骨中ノ廣且厚キ部ナ  
 リ、其式略ホ方形ニシテ、前面稍ヤ凸出シ、后面亦  
 稍ヤ凹入シ、上縁ハ尤モ廣厚ニシテ、横徑ニ凹陷  
 シ、其兩隅ニ於テ、深窩アリ、以テ鎖骨ト關節ト下  
 縁ハ細狭ニシテ、第二片ニ联接ス、兩側縁ハ、下内  
 方ニ屈曲シテ、共ニ二窩ヲ有シ、其上窩ハ全面ニ

シテ、第一肋軟骨ニ連リ、下窩ハ半面ニシテ、第二  
 肋軟骨ノ一部ニ接ス、  
 刀身ハ、即チ第三片ニシテ、最長久、骨中ノ體部ヲ  
 為ス、中間ハ廣ク、兩端ハ狭ク、前後ノ二面ハ、殆ト  
 扁平ニシテ、數箇ノ横紋ヲ有シ、元ト數片ヨリ造  
 成セシヲ徵ス、側縁ハ、左右共ニ、逐次ニ六箇ノ關  
 節窩ヲ有シ、其兩端ノ二窩ハ、半面ニシテ、上ノ者  
 ハ、第二肋軟骨ノ一部ヲ承ケ、下ノ者ハ、第七肋軟  
 骨ノ一部ヲ承ク、  
 尖端ハ、即チ第三片ニシテ、骨中ノ尤モ細小、且ツ

甲 カルチレグミンタルミス

軟薄ナル部ナリ其形式一定セス或ハ扁圓或ハ分裂或ハ舌ノ如ク或ハ扁平尖長ニシテ劍端ノ如キヲ以テ劍狀軟骨カルチレグミンタルミスト稱ス側縁ニ於テ半窩アリ以テ第七肋軟骨ノ一部ニ联接ス蓋シ生后數年ヲ經テ硬化シ始メ耆老ニ至ルモ尚ホ全化スルハ稀ナリ

胛骨

乙 ヲザインノミナタ  
全 ヲサアノニーマ  
全 ヲサアノニーマ

胛骨 ヒツボ 一名無名骨 イトノミ子ハ軀幹骨中ニ算入スレヒ元ト下肢ニ属スル者ナレハ其關係タル猶肩胛骨ノ上肢ニ於ケル如シ然レヒ薦

骨ト會合シテ尻骨盤ヲ造爲シ生殖器ト泌尿器ト營養器ノ一部等トヲ藏ムルヲ以テ此篇ニ列舉ス此骨嬰兒ニ在テハ三箇ニ分カル故ニ今從テ三部ト爲シ辨説ノ便ニ供ス曰腸骨坐骨耻骨是ナリ

甲 ヲサアノニーマ  
乙 ヲサアノニーマ

腸骨 ユムリハ廣厚ナル大板ニシテ胛骨ノ上部ヲ

造爲シ内面ニ於テ前後下ノ三面ヲ有ス前面ハ

腸骨窩 イリアト稱シ滑澤ニシテ廣淺ニ凹入ス

后面ハ凸凹不正ニシテ半ハ薦骨ニ聯合シ半ハ軟帶ヲ附着ス下面ハ尻盤内ノ一部ヲ造爲シ狹

乙 ヲサアノニーマ









